一粒の麦次々と結実

社会福祉法人三重ベタニヤ 地域密着型特別養護老人ホーム グレイスホーム

社会福祉法人「三重ベタニヤ」(三重県松阪市・村上久理事長=松阪コミュニティ・チャーチ牧師)の地域密着型特別養護老人ホーム「グレイスホーム」が4月1日にオープンした。3月18日に竣工式が行われ、設計・施工関係者や自治体、自治会関係者らが喜びを共にした。

◇◆◇

グレイスホームは松阪市在住の要介護3、4、5の高齢者を対象にした施設。敷地面積約2千980㎡、床面積約千820㎡、鉄骨造り2階建て。定員29人。全館豊かな採光で明るく暖色の彩りも美しい。光が溢れる居室から眺められるのは、川沿いに広がる緑豊かな風景。ゆったりとしたスペースの温かさに満ちたホームだ。全室個室10人1グループが3ユニット。それぞれがリビングを囲み、少人数の家庭的な雰囲気の中で日々を送れる。

村上久理事長

特徴は「ライフエンディングケア」。日常生活の支援と共に、心と魂の領域に及ぶミニストリーを行う。死を目前にした人の魂の平安をとりなす働きをしていきたいと願っている。チャプレンが入居者や家族の心の悩みや相談に応じ、週3回礼拝を行って、入居者の「魂の休息と安心の糧」を提供する。

竣工式では坂内憲之常務理事から経過報告があった。三重ベタニヤはこれまで、軽費老人ホーム・ケアハウス「ベタニヤハウス」、「ベタニヤ在宅介護複合施設」、特別養護老人ホーム「アガペホーム」をいずれも津市で、松阪市では地域密着型サービス「いこいの家」を開設している。今回市民も念願だった特別養護老人ホームをスタートさせることができた。

グレイスホーム外観

メッセージに立った村上真理事(社会福祉法人救世軍社会事業団・恵泉ホーム(施設長)は「ベタニヤが始まったのは、故・井上満さんのささやかな献金が基になっています」と、振り返った。

井上氏は村上理事長が津新町キリスト教会の牧師として赴任した1966年、国立結核療養所・静澄園の聖書研究会で学んでいた患者だった。小学生で発病し、40年近い療養生活の末に84年、47歳で亡くなったが、同い年のクリスチャン同士、村上久牧師とは深い友情で結ばれていた。井上氏の遺志で預貯金が教会に献金された。

「この尊いささげものをどのように使わせていただけばいいのか」。そのとき与えられた思いを、村上牧師は著書『ベタニヤ物語』に次のように記している。

「私たちの教会は療養所の伝道など社会的に比較的弱い立場にある人々に対する重荷を与えられてきた。井上満氏のような立場にある人々の助けになる働きのために役立てることができれば、これこそ彼の志に報いることになるのではないか。それはこの献金をもって基金を創設することであった」。これがベタニヤ・ハウス建設基金となった。

村上真理事は「ある人が一粒の麦となって亡くなった。あなたはわたしの目には高価で尊いというみことばに生きる力と希望を持った人の遺志が、この事業の始まりとなりました」と語り、ここで個々の存在を認める本来の福祉を進めて行ってほしいと結んだ。

村上久理事長は「入居者の方とスタッフと経営、この3つが満足するホームでありたい。聖書の教えを土台とした働きが豊かに用いられるように、一人ひとりが終わりのときに、本当に良かったと思える場所となりますように」と、奉献の祈りをささげた。

竹上真人松阪市長代理、舟橋裕幸県議、設計施工業者のあいさつに続き、日本バプテスト宣教団代表の谷口峰夫氏は「希望を感じられるホームとなりますように」と、語った。村上理事長から総合設計株式会社イストと大和ハウス工業四日市支店に感謝状が送られた。

来年春には低所得者を対象にした有料老人ホームが完成する予定だ。

【藤原とみこ】

アズベリー大学学長、ウェスレー聖書神学校理事長歴任 デニス・キンロー氏逝去

米国福音派を代表する旧約学者、元アズベリー大学学長、フランシス・アズベリー・ソサイティ創立者のデニス・キンロー氏が4月10日朝、ケンタッキー州ウィルモアにおいて逝去した。享年94歳。

1922年、ノース・カロライナ州ランバートンに生れる。アズベリー神学校旧約学教授を経て68~81年までアズベリー大学学長。70年、学内にリバイバルが起き、学生から教授、牧師にまで深刻な悔い改めの祈りが連日連夜続く。聖化と宣教の団体フランシス・アズベリー・ソサイティ創設、ウェスレー聖書神学校の理事長を歴任。米国合同メソジスト教会の教職を務めた。『エマオへの道』(日本聖化協力会)、『キリストのように生きる』『キリストの心で』(いのちのことば社)などの日々の霊想書や信仰書も日本のキリスト者に広く親しまれ、愛読されている。

同氏と親交の深かったウェスレー聖書神学校名誉教授田代幸雄氏によると、「前夜式(4月14日)は長蛇の列で棺に近づくのに1時間以上を費やした。葬儀(15日)での追憶の辞の一人はジョン・オズワルト氏。最後に声がつまり1分以上絶句したのが印象的であった」。オズワルト氏は一昨年日本聖化協力会30周年記念大会の主講師である。

キンロー氏と日本の福音派教会との関わりは深い。旧約学においては『聖書・新改訳2017』翻訳編集委員会委員長津村俊夫氏もアズベリー神学校在学中、同氏から指導を受けた者の一人、聖化運動においては日本聖化協力会などが主催する聖化大会、セミナーにおける講師の多くが同氏の門下生であった。まさに心霊と学識と活動、霊性と牧会と宣教が見事に織り込まれた福音の使者。葬儀式次第に記されている彼の生涯の聖句「私にとっては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である」(ピリピ1・21、口語訳)と、彼が残した言葉「一瞬の神が働かれる神聖な時を与えてください。そうすればその一瞬は世紀を貫くあらゆる人間の努力にはるかに勝ると言えるでしょう」は、彼の生涯と働きのすべてを如実に物語っている。(日本イエス・キリスト教団香登教会牧師、ウェスレー聖書神学校理事工藤弘雄記)

情報クリップ

【各地】レーナ・マリア・コンサート2017(同実行委員会主催)▽茨城県=5月19日午後7時30分~。常総市大生郷町の筑波キングス・ガーデンで。▽福島県=20日午後2時~。いわき市泉町滝尻泉町の福島第一聖書バプテスト教会で。▽埼玉県=21日午後3時~。草加市松江の草加市文化会館で。▽東京都=22日午後7時~。練馬区練馬の練馬文化センターで。▽兵庫県=26日午後7時~。丹波市柏原町柏原の丹波の森公苑ホールで。▽広島県=午後3時~。呉市中央の呉市文化ホールで。▽岡山県=28日午後3時~。岡山市東区西大寺中野の西大寺キリスト教会で。▽熊本県=29日午後7時~。熊本市西区春日のくまもと森都心プラザ5階プラザホールで。つくば・草加・練馬・丹波・呉は前売り券2千500円(当日券3千円)。熊本はチャリティーコンサートで無料。募金箱設置。福島・西大寺のチケット料金は要問い合わせを。全席自由。手話通訳あり。Tel 03-5341-6911(いのちのことば社)

【東京】水澤心吾一人芝居 決断命のピザ"SUENPO"杉原千畝物語(ヴィジョン企画主催)5月20日午後7時30分~。千代田区内幸町の内幸町ホールで。前売り3千円(当日3千500円)。申し込み問い合わせはTel 03-3226-0170、Fax 03-3226-0035、Mail mr-suzuki@sangokan.com(三五館、担当・鈴木)

【東京】こどもミニストリースタート&リスタート体験セミナー(いのちのことば社こども宣教室主催)5月27日午後2時~。中野区中野のいのちのことば社で。こどもミニストリー・プログラム例体験+ゲームミニ講座、教会のこどもミニストリーの現状紹介など。参加費500円。Tel 03-5341-6929、Fax 03-5341-6932、Mail jinbo_h@main.wjpm.or.jp

【東京】第49回再臨待望東京大会(キリスト再臨待望同志会主催)5月28日午後3時~、午後5時~。杉並区南荻窪の荻窪栄光教会で。笠代照夫(イムマヌエル綜合伝道団協力牧師)。Tel & Fax 03-3335-8900(事務局)

【東京】銀座・星野富弘 花の詩画展(同開く会主催)6月2日~18日午前10時~午後7時(最終日は午後5時まで)。中央区銀座の銀座教文館9階ウェンライトホール、第2会場3階ギャラリーステラで。新作詩画の初公開など。入場料一般600円(小中学生無料)。ギャラリーステラは無料。Tel 03-550-0789(教文館総務)

《テレビ》ライフ・ライン 5月6、7日「Evergreen~永遠に~2」竹下静さん 昨年、旧約聖書の詩篇からインスピレーションを受けて作ったアルバム「Evergreen~永遠に~」をリリースしたシンガーソングライターの竹下静さん。神様に愛されている喜びを歌を通して伝えたいと語る竹下さんに話を聞くとともに、昨年11月、東京で開催された「Evergreenツアー ライブ」から歌を届ける。メッセージは安海靖郎氏。

「カレブの会」勉強会 映画「沈黙」を観て、聖書に問う③

キリシタン時代の日本の土壌は良かった

今年1月に全国公開された映画「沈黙―サイレンス―」(マーティン・スコセッシ監督)。4月8日、東京・千代田区神田駿河台のお茶の水クリスチャン・センターで開かれた「カレブの会」勉強会で、棚沢英樹氏(元「トーチベアラーズ山中湖」ディレクター)が、『沈黙:サイレンス』を観て、聖書に問う」をテーマに講演した。その最終回。

◇◆◇

「転び・背教を聖書はどう扱っているか」、「キチジローの場合」、「神の沈黙について」を語った後、次に「日本人はキリスト教の神を信じられるか?」というテーマを取り上げた。

それについて、転んだ神父フェレイラに触れた。「歴史を見ると、フェレイラと一緒に7人が逆さ吊りの刑になった。いちばんの年配のサント司教は9日間苦しみに耐え、かって14、15歳の時、少年遣欧使節として、ヨーロッパを訪問したジュリアン中浦は4日耐え殉教した。ところが、フェレイラは5時間で転んだ。フェレイラは立派な神学者で、神学校で教えていた人物。『かつて私はあなたを見上げた。あなたの教えに感服して、信仰生活に将来が見えた。そんな立派なあなたが、なぜ転んだのですか』と、ヨーロッパでは大きなニュースになった」

棚沢氏は、フェレイラが転んだ理由を、彼が幕府の圧力のもと書いた『顕偽録』の中から示した。「彼は『顕疑録』の中で『唯一神を訴えるキリスト教は、八百万の神々の精神土壌の日本では根付かない』と書いている。だから、自分の信仰に固執すればするほど、日本のキリシタンが苦しめられる、と。四六時中拷問を受けている信徒の叫び声を聴けば、たぶん信仰者は耐えられなくなる。もし、福音が受け入れられないのならば、イエスはこうおっしゃった。『足の塵を払って他の所に行きなさい』(マタイ10・14)と。パウロ、バルナバも、町に入って福音を語ったけれど受け入れられない時は、他の町に移動した(使徒13・44~52参照)。それを知っていたフェレイラは、もしかしたら、今の時は日本にキリスト教を布教する時期ではない、と考えたのでは」

フェレイラが5時間で転んだ謎が、その辺りにあるのではないかと棚沢氏は語る。

「キリスト教は本当に根を下ろさないのか?」というテーマについては、「そうとは言えない」と言う。「ザビエルが1549年宣教を始め、1614年の宣教師追放令が出るまでの65年間、キリシタンは45~50万人に増えた。当時の総人口は千200~2千万なので、キリシタン人口は3%だ。プロテスタント宣教150年を過ぎてまだ1%以下なのに、64年で3%は非常に大きな数字だ。この短期間でのキリシタンの人口の増加を見ると、根を下ろさないとは言い切れない。むしろ、キリシタン時代の日本の土壌はとても良かったのではないか?(マタイ13・1~9参照)」

「大村純忠、大友宗麟、小西行長、高山右近、黒田官兵衛などキリシタン大名はしっかりとした教理問答の上入信している。彼らの信仰が本物であった証拠は、彼らの信仰生活からも伺える。ザビエルの2年間の宣教の最も大きな収穫は、ロレンソ了斎という琵琶法師が信仰に導かれたこと。彼はとても頭の良い宗教的な人間で、彼を通して多くの人々は信仰に導かれた。彼は織田信長の前で、仏教の僧侶と宗教問答をしている。その神の説明が理にかなっているので、信長はそれを大いに受け入れた」

「キリスト教信仰は一度、日本の土壌に根を下ろした」と棚沢氏

「また、当時の教会の交わりも信仰生活も真実なものだった。特に高槻教会は高山飛騨守と右近親子が、高槻城主となった時、城下に教会を作った。右近親子は自ら下足番をして貧しい人の世話をするなど、当時の武家の階級社会を考えた場合、それは驚くべき姿だ。この様な、真実な教会生活が、短期間のうちに3%に近い信徒数を残したとすれば、キリスト教信仰が、日本の土壌に一度根を下ろした、と認めて間違いはないのではないか。もちろん、その後260年に及ぶ厳しい弾圧で、根は断ち切られたけれども」

最後にヘブル書12章1、2節を引用した。「このようにいうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまとわりつく罪とを捨てて、私たちの前に置かれている競争を忍耐を持って走り続けようではありませんか」(終わり)

【中田 朗】